

エゼキエル 2：1－2 「立ち上がって前進しよう！」

はじめに

疲労困憊してへたりこんでしまう時がありますよね。わたしたちは「休め」と神様から言われることがあります。そういう時は、ゆっくり休まなければなりません。いずれ立ち上がる時がやって来ます。立ち上がることができるように、神様は力を与えてくださいます。今日は「立ち上がって前進しよう！」というテーマで、神様が与えてくださる力について見て行くことにしましょう。

1 神の偉大な力

人生をどのように眺めるか。いろんな眺め方があります。眺め方を「世界観」と言うこともできますね。どういう世界観で世界を見るかが、自分の人生のあり方に大きく影響してきます。わたしたちは毎日何を眺めて生きていますか？ 夫が脱ぎ捨てた靴下ばかり見えていますか？ 薄くなって行く自分の頭を見えていますか？ 減っていく通帳の数字を見えていますか？ どんどん上がる血圧計を見えていますか？ 細かいことばかり見て生きて行くという人生もあるでしょう。しかしわたしたちは、大きな大きな神様の偉大な力を見たいと思うのです。

2 神の戦車

神様の大きな大きな力。それが絵画的に示されているのがエゼキエル書第1章の「神の戦車」（メルカバー）です。わたしたちは肉眼で神様を見ることはできません。哲学的に言えば、神は絶対的他者で超越的他者で人間の理解を超えている、見ることのできない存在です。それはちょうど、小さな一匹のアリがどんなに大きく目を見開いてもアンドロメダ大星雲とマゼラン星雲の関係を見ることが出来ないし理解もできないのと似ております。

しかし旧約聖書におきましては、この人間の理解をはるかに超えて大きな神様を、人間の理解力の限度をいっぱいに使って描こう、という努力がなされております。そうして描かれたのがエゼキエル第1章の「神の戦車」であります。

3 巨大な車輪

この「神の戦車」には、四つの巨大な車輪がありまして、天と地をつなぐほど

巨大であり、車輪の外枠には一面に目がついていて、これが全速力で回転して地上のあらゆるところを行き巡るのです。目がたくさんあるのは、地上の出来事を神様は全部見ておられて一つも見逃さない、という事実を示しております。

わたしたちは時々、「どうせ自分の苦勞なんて、だれもわかってくれない」「自分の気持ちなんて、だれもわかってくれない」「だれも見えていないんだから、まあいいや」と思うことがあります。しかし「だれもいないと思っていても、どこかでどこかでエンゼルが」という森永のコマーシャルソングのように、ちゃんと見ているお方があるんですよ。神様です。神様は、わたしたちのどんな小さな動きも、どんな小さな感情も、すべて見て知って理解して記憶しておられます。わたしたちは「見られている」ことを意識しなくちゃいけない。ピーター・ワグナー博士は言いました。「きよい生活とはガラス張りの家で生活するようなことです」 わたしたちの人生はいつでも神の目の前に置かれています。

4 四つの生き物

さて、巨大な車輪の上には、ケルビムという四人の巨人が立っておりまして、これが神様の座っておられる御座をうやうやしく運んでおりました。四つの巨人にはそれぞれ四つの顔がありまして、その顔というのは人間、ライオン、牛、ワシでありました。これは何を意味しているかと言うと、神様が生きとし生けるものの世界すべてをご支配なさっている、という事実を示しております。人間と野生動物と家畜と空を飛ぶ鳥。そのすべてを神様はご支配なさっていたものであります。

ところで、四つの巨大な車輪も、四つの巨人も、天と地をつなぐほど巨大であって、その姿は大変不気味で、わたしたちを心底震え上がらせるという意味で、きわめて「ヌーメン的」（畏怖的）な存在でありますけれども、しかし、そんな巨大な車輪、巨人といえども、動力を得ないことには1ミリも動くことだってできません。車輪と巨人の動力となっていたのが、「神の霊」であります。こう言われております。すなわち、エゼキエル書第1章12節に「それらはそれぞれの顔の向いている方向に進み、霊の行かせる所へ進んだ」とありますとおり、神様の霊が、巨大な車輪を回転させ、神様の霊が、巨人たちをつき動かしていたのであります。

わたしたちは、大きな仕事をやろうと思って、大きな計画を立てて、大きな予算を作って、大きな買い物をして、大きな仕掛けをやろうと企てます。だけれ

ども、もしそこの真ん中へ「神の霊」がいましたまわれないとするならば、どうなりましょうか？ 神の戦車は冷たくなって、止まったままです。それはエンジンの無い自動車、機関車の無いブルートレイン、ボイラーの火が消えた豪華客船です。しかし、神の霊がいましたもうとき、「彼らの有様は燃える炭火の輝くようになり、松明の輝くように行き巡る」のです。「それらは霊が行かせる方向に、霊が行かせる所にはどこにでも進む」のです。

わたしたちの人生の最終目的地はどこにありますか？ 人生の最終目的地を、どうやってわたしたちは見出すのでありましょうか？ 聖書は言うのです。「神の霊が行かせる方向に進め。神の霊が行かせる所にはどこにでも進め」わたしたちは、自分の狭く小さな考えを置いて、神の霊の導きを受けるべきであります。

5 神の霊を受けた人間

さて、神の霊は、巨大な車輪をすさまじい速さで回転させるだけではありません。神の霊は、恐ろしい巨人を縦横無尽に動かすだけではありません。驚くべきことでありますが、神の霊は、わたしたちの中に入って来られる。すると、わたしたちは、自分の足で立つことができるようにされるのであります。

今日の聖書に、『人の子よ、自分の足で立て。わたしはあなたに命じる』 彼がわたしに語り始めたとき、霊がわたしの中に入り、わたしを自分の足で立たせた」（エゼキエル 2：1－2）と言われているとおりであります。

わたしたちは、どうしたら自分の足で立って、自分の人生を進んで行くことができるのだろうか？ 足を鍛えることですか？ 高いスニーカーを買うことですか？ ひざにアンメルツを塗ることですか？ そういうこともしなければなりません、わたしたちは、神の霊を受けるべきです。すると、わたしたちは力に満たされます。天地をつなぐ巨大な車輪を回転させる神の力。生きとし生けるあらゆるものを支配する偉大な神の力。その力をわたしたちは受け取るのです。それは、どんな武力や権力をも凌駕する力です。ゼカリヤ書で「武力によらず、権力によらず、ただわが霊によって、と万軍の主は言われる」（ゼカリヤ 4：6）と記されている通りです。

どうしたら、わたしたちは神の霊を受けることができますか？ 十字架にかかり三日目に復活したもう主イエスキリストを救い主として心から受け入れると

きに、神の霊がわたしたちの中へお入りになります。ヨハネによる福音書第20章21節で復活の主イエスは信じる者たちに息を吹きかけて言われます。「聖霊を受けなさい！」使徒言行録第2章38節で聖ペトロはこう勧めます。「悔い改めなさい。めいめいイエスキリストの名によってバプテスマを受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます」わたしたちは、犯した過ちを告白して、悔い改めましょう。イエスが十字架にかかってわたしたちの罪を償ってくださったことを信じましょう。三日目に復活して、わたしたちを赦し、義としてくださったことを信じましょう。信じる者たちの心の中に神の霊がお入りになります。

神の霊が、わたしたちを立ち上がらせ、わたしたちを前進させてくださいます。聖パウロがローマの信徒への手紙第8章26節から28節で、こう言っているとおりです。「神の霊は、弱いわたしたちを助けてくださいます。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、神の霊自らが、言葉に表せないうめきをもって執り成してくださるからです。人の心を見抜く方は、神の霊の思いが何であるかを知っておられます。神の霊は、神の御心に従って、聖なる者たちのために執り成してくださるからです。神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています」

わたしたちは、神の霊を受けて、立ち上がって、前進します。なぜなら

第一に、神の霊は、神の思いをすべて知っていたもうからです。

第二に、神の霊は、人間の思いをすべて知っていたもうからです。

第三に、神の霊は、執り成しの祈りをしてくださいます。

神の思いと、人間の思いと、両方を神の霊はよく知っていたもうゆえに、神と人間との間に立って、神の霊はよく執り成しの祈りをすることがおできになるのです。

第四に、神の霊は、人生の最終目的地点をよく知っておられます。それがすなわちローマ書8章29節「神は前もって知っておられた者たちを、御子イエスキリストの姿に似たものにようとあらかじめ定められました」とある通りです。

むすびとして

わたしたちがイエスキリストに似た栄光の姿に変わることを。これがわたしたちの人生の最終目的地点です。そこまで必ず前進することができます。神の霊が、わたしたちを動かしてくださるからです。神の霊を受けましょう！